

### 3 どんなことを調査し何がわかるのですか？

#### 調査票は2種類あります

この調査では、調査票Aと調査票Bの2種類の調査票を使用します。調査票Aと調査票Bのどちらが配布されるかについては、調査区ごとに決められています。

調査票Aは、世帯や世帯員について、過去1年間のさまざまな活動状況や指定された2日間の生活時間（時間の過ごし方）を調査します。

一方、調査票Bは、世帯や世帯員について、指定された2日間の生活時間を、できるだけ詳しく、具体的に記入する方法により調査します。

#### 調査票A

##### 世帯員に関する項目

- 1 氏名・男女の別
- 2 世帯主との続き柄
- 3 出生の年月
- 4 配偶者の有無
- 5 教育
- ★ 6 あなたの子どもはどこに住んでいますか
- 7 ふだん家族の介護をしていますか
- 8 ふだん仕事をしていますか
- ★ 9 仕事をしたいと思っていますか
- ★ 10 1週間に何時間ぐらい働きたいと思っ  
ていますか
- 11 勤めか自営かの別
- 12 勤務形態
- 13 年次有給休暇の取得日数
- 14 本人の仕事の種類
- ★ 15 勤め先・業主などの企業全体の従業員数
- 16 ふだんの1週間の就業時間
- 17 希望する1週間の就業時間
- ★ 18 ふだんの片道の通勤時間
- 19 ふだんの健康状態
- 20 仕事からの1年間の収入または収益  
(税込み)

##### 生活行動について

- ★ 21 学習・自己啓発・訓練について
- ★ 22 ボランティア活動について
- ★ 23 スポーツについて
- ★ 24 趣味・娯楽について
- ★ 25 旅行・行楽について

##### 生活時間について

- 26 生活時間について

##### 世帯に関する項目

- 27 住居の種類
- 28 自家用車の有無
- 29 世帯の年間収入(税込み)
- 30 ふだん世帯員以外の人から  
介護の手助けを受けていますか
- 31 不在者の有無

##### 10歳未満の世帯員について

- 32 世帯主との続き柄
- 33 年齢
- 34 在学・在園の状況
- 35 ふだん世帯員以外の人から  
育児の手助けを受けていますか

★は「調査票A」のみの項目  
下線は平成23年調査から新たに追加した項目

#### (Q&A)

**Q:** 調査票が2種類あるのはなぜですか？

**A:** 調査票Aと調査票Bでは、生活時間の把握に異なる方式を採用しています。

調査票Aでは、回答者が自分の行動を15分ごとに、20の行動の種類の中から選びます。一方、調査票Bでは、回答者が日記のように詳しく記入した行動を、集計の際に、既定の詳細な分類基準に従って分類します。

調査票Aは事後の分類事務がなく、早く集計できるため、大規模な調査が可能となり、地域別、または個人や世帯の属性別の詳細な結果が得られます。調査票Bは分類区分を細かく設定することで、行動の詳細な把握ができるため、諸外国の生活時間との比較が可能となります。

#### 調査票B

##### 世帯員に関する項目

- 1 氏名・男女の別
- 2 世帯主との続き柄
- 3 出生の年月
- 4 配偶者の有無
- 5 教育
- ★ 6 ふだん自分の用途で携帯電話や  
パソコンなどを使用していますか
- 7 ふだん家族の介護をしていますか
- 8 ふだん 仕事をしていますか
- 9 勤めか自営かの別
- 10 勤務形態
- 11 年次有給休暇の取得日数
- 12 本人の仕事の種類
- 13 ふだんの1週間の就業時間
- 14 希望する1週間の就業時間
- 15 ふだんの健康状態
- 16 仕事からの1年間の収入または収益(税込み)

##### 生活時間について

- 17 生活時間について

##### 世帯に関する項目

- 18 住居の種類
- 19 自家用車の有無
- 20 世帯の年間収入(税込み)
- 21 ふだん世帯員以外の人から  
介護の手助けを受けていますか
- 22 不在者の有無

##### 10歳未満の世帯員について

- 23 世帯主との続き柄
- 24 年齢
- 25 在学・在園の状況
- 26 ふだん世帯員以外の人から  
育児の手助けを受けていますか

★は「調査票B」のみの項目  
下線は平成23年調査から新たに追加した項目

## 世帯員に関する項目

### 氏名・男女の別

氏名は、調査のもれや重複を防ぐとともに、調査事項に記入もれなどがあった場合に、照会するための項目であり、集計には用いません。

男女の別は、個人に関する最も基本的な項目であり、仕事や家事などといった生活時間の配分や行動の男女の別による違いを明らかにするために必要です。

### 世帯主との続き柄

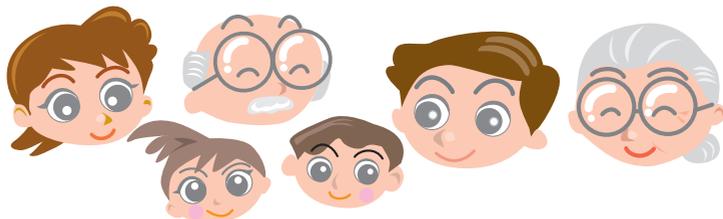
この項目は、世帯における世帯員の構成をみるために必要です。男女の別、年齢などと組み合わせて、夫婦と子供の世帯、高齢者夫婦の世帯などのように世帯を類型化して捉え、これらの類型別に生活時間の配分や個人の生活行動を明らかにします。

### 出生の年月

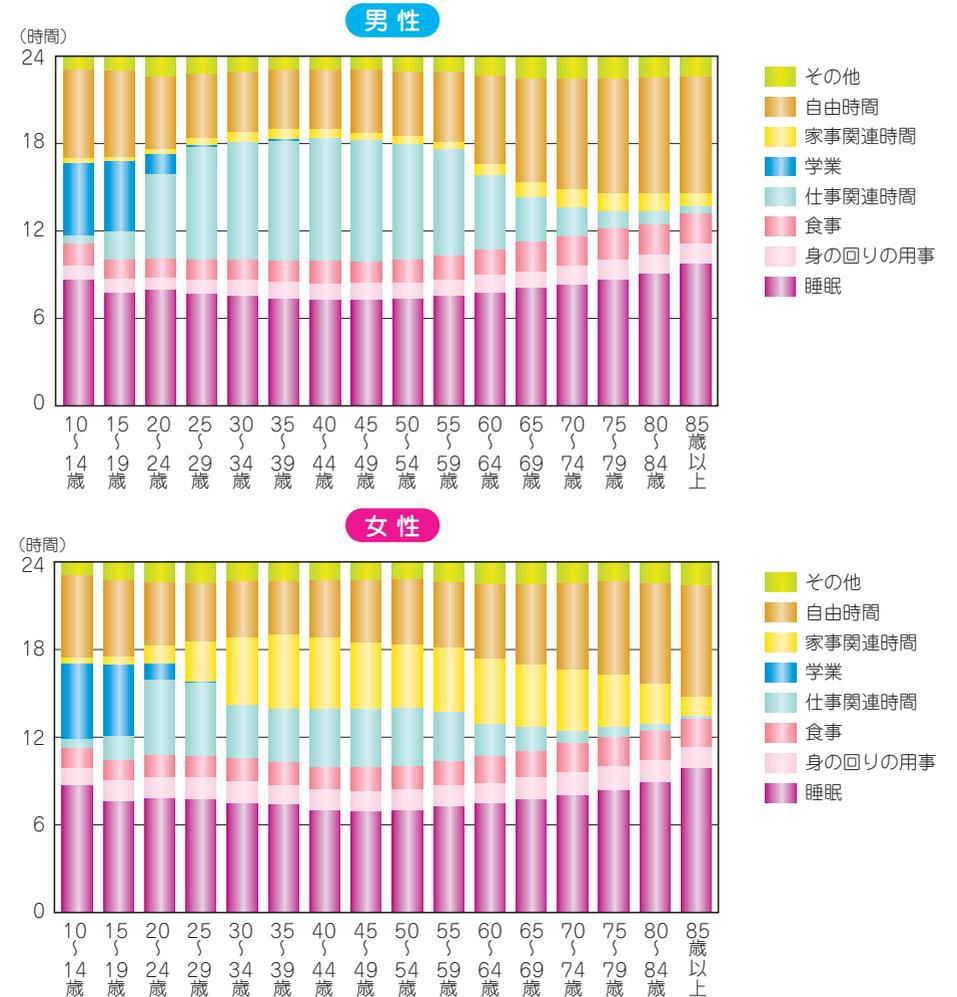
この項目を基にして年齢を計算します。世代の違いにより、学業、仕事、育児などといった生活時間の配分や行動に違いがみられ、年齢を把握することにより、これらの状況が明らかになります。

### 配偶者の有無

年齢層が同じであっても、配偶者の有無により、地域とのつながりや交際、仕事、家事など、生活行動に大きな違いがみられます。わたしたちの生活行動を明らかにするために必要となる項目です。



## 1日の生活時間配分（男女、年齢階級別、週全体）－平成18年



(注) 自由時間…「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」、「学習・研究(学業以外)」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「ボランティア活動・社会参加活動」の合計  
家事関連時間…「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の合計  
仕事関連時間…「仕事」、「通勤・通学」の合計

男女、年齢階級別に1日の生活時間をみると、仕事関連時間、家事関連時間及び学業の合計は、男女共に40～44歳が最も長くなっています。また、いずれの年齢階級でも男性は仕事関連時間が、女性は家事関連時間が大きなウエイトを占めています。

## 教育

在学中の人はその学校，卒業した人は最終卒業学校を調べるものです。これにより，小学校・中学校・高校など，在学する学校の種類別に，1日の生活時間の配分や自由時間の活用のしかたなどが明らかになります。また，学校教育以外の学習活動（学習・自己啓発・訓練）と組み合わせて集計することにより，学校教育では補えない部分の学習分野の状況が明らかになるなど，社会教育や生涯学習の振興などの行政施策に活用することができます。



## ふだん自分の用途で携帯電話やパソコンなどを使用していますか

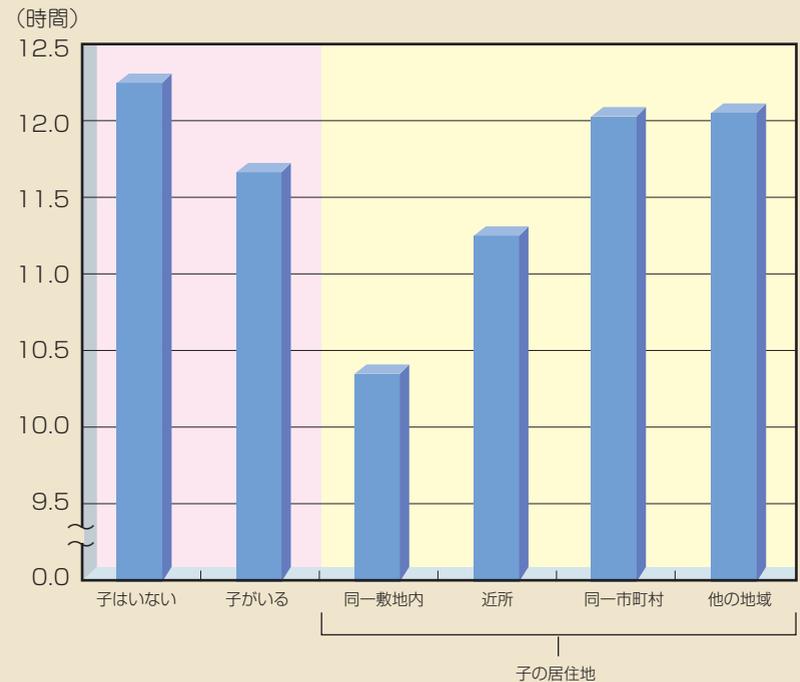
携帯電話やパソコンなどの情報通信機器の普及が，わたしたちの日々の生活の行動や時間の配分に与える影響は少なくありません。この項目により個人が利用可能な情報通信機器の有無と1日の行動及び時間配分との関係などが明らかになります。



## あなたの子はどこに住んでいますか

高齢者の生活行動は，子供が同じ敷地内や近くに住んでいるかそうでないかによって違いがあり，このような状況を把握するために必要な項目です。

## 一人暮らしの人が一人でいた時間(60歳以上，週全体) - 平成18年



60歳以上の一人暮らしの人について，1日のうち「一緒にいた人」別の時間をみると，子供がいない人よりも子供がいる人の方が一人でいる時間は短く，また，子供が住んでいる場所が近いほど，一人でいる時間は短くなっています。

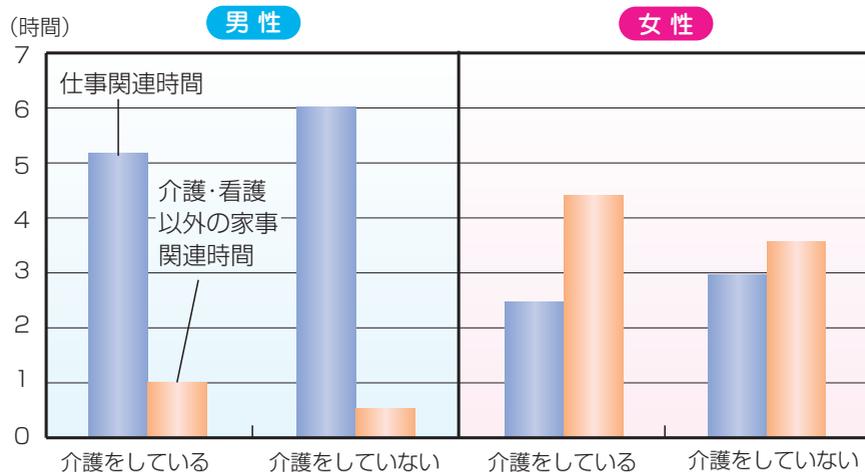


### ふだん家族の介護をしていますか

家族が日常生活の中で入浴・着がえ・トイレ・移動・食事などを行う際に、何らかの手助けをする「介護」の状況を明らかにします。

これにより、家族の介護にかかる時間が明らかになり、介護・高齢者福祉施策など、重要な政策課題となっている介護問題への対応に必要な基礎資料を得ることができます。

#### 介護・看護の有無別にみた仕事、家事時間(15歳以上、週全体)ー平成18年



(注)仕事関連時間・・・「仕事」、「通勤・通学」の合計  
介護・看護以外の家事関連時間・・・「家事」、「育児」、「買い物」の合計

ふだん介護・看護をしている人は、男女共に、していない人に比べ家事関連時間が長く、仕事関連時間が短くなっています。



### ふだん仕事をしていますか

働いているか働いていないか、また、働き方の違いなどは、生活時間や生活行動に大きく影響するため、これらの状況を明らかにする必要があります。

### 仕事をしたいと思っていますか

仕事をしていない人について、将来的なことではなく、現在仕事をしたいと思っているかどうかを調査し、就業意欲のある人の生活時間をみることによって、何が就業の障害となっているのかを明らかにするために必要な項目です。

### 勤めか自営かの別

働いている人については、自分で事業を営んでいるのか、雇われているかなどによって、生活時間の配分、特に労働時間の長さ、自由時間の長さやその活用の仕方などに違いが出てきます。このため、ふだん仕事をしているかどうかだけでなく、勤めか自営かの別を把握する必要があります。

また、雇用されている人については、雇用形態別に1日の生活時間の配分や活動状況を捉えることにより、正規の職員・従業員とそれ以外の職員・従業員の生活行動や時間配分の違いが明らかになります。



### 勤務形態

近年、フレックスタイムや裁量労働制など、勤務形態の多様化が進んでいます。また、パートなど正規の職員・従業員以外でも、正規の職員・従業員と同様にフルタイムで働く人が増えています。

勤務形態は、労働時間をはじめとする生活時間の配分とのかかわりが強いことから、これらの分析に必要な項目です。

### 年次有給休暇の取得日数

年次有給休暇の取得状況は、労働時間やその他の生活時間の配分や自由時間における行動との関係を明らかにするために活用されます。とりわけ、休暇の取得と育児・介護の状況との関係の把握や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の分析に役立ちます。



### 本人の仕事の種類

働いている人が、どのような仕事に携わっているかを把握し、それらを分類して生活時間の配分や活動状況の実態を明らかにすることにより、各種行政施策の基礎資料として活用されます。

仕事の内容を詳しく記入するのは、この記入内容を基に、「日本標準職業分類」という分類基準に照らして職業を間違いなく正確に分類するためです。これにより、実態をより正確に把握することが可能となります。

### 勤め先・業主などの企業全体の従業者数

この項目は、「勤めか自営かの別」で把握する事項と組み合わせて、勤め先の企業や経営する企業の規模の違いによる労働時間や自由時間の状況を分析するために必要な項目です。



### ふだんの1週間の就業時間

### 希望する1週間の就業時間

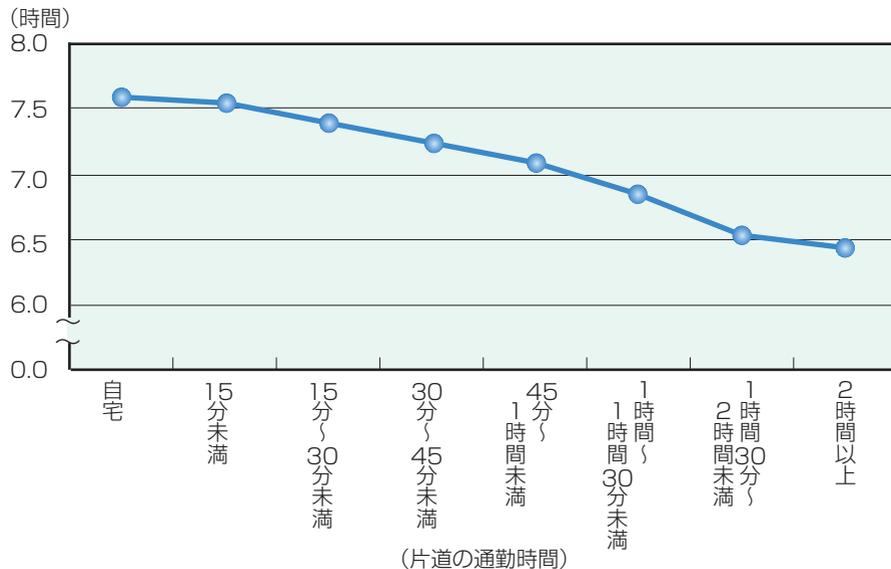
### ふだんの片道の通勤時間

働いている時間や通勤にかかる時間の長さは、睡眠時間の長さや自由時間の活用のしかたなどに大きな影響を与えます。

就業や通勤時間の別に生活時間の配分や活動状況を集計することにより、労働時間や通勤時間の長短と他の生活時間との関係などが明らかになります。

また、希望する就業時間を把握することによって、ふだん就業時間とのギャップが生じる原因を育児・介護等、その人が置かれている状況との関係から明らかにするなど、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関するより多様な分析を行うことが可能になります。

片道の通勤時間別にみた平日1日の睡眠時間(男, 雇用されている人) - 平成18年



雇用されている人のうち男性について片道の通勤時間別に平日の睡眠時間をみると、男性は通勤時間が長くなるほど睡眠時間は短くなっています。

### ふだんの健康状態

ふだんの健康状態は、1日の労働時間の長さや自由時間の活用のしかたに大きく影響します。したがって、労働時間の長さや自由時間の長さをみる際には、ふだんの健康状態の違いによって区分する必要があります。

### 仕事からの1年間の収入または収益(税込み)

個人の仕事からの収入を調べることで、その仕事から得られる収入と労働時間の長さや働き方との関係を分析することが可能になり、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進など各種行政施策の基礎資料となります。



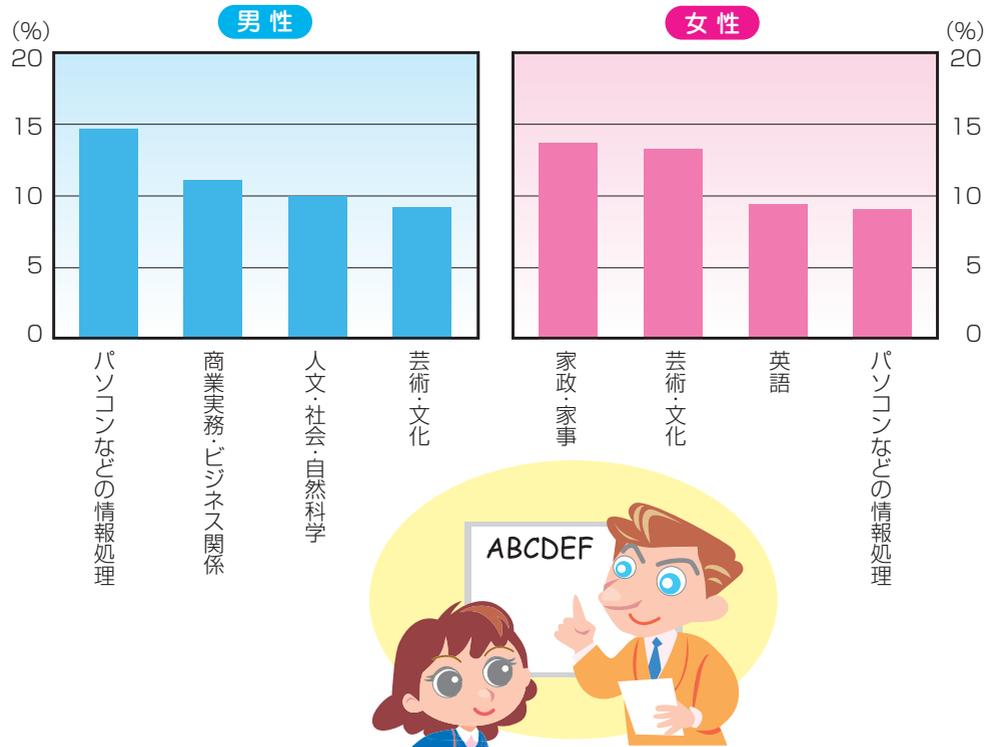
## 1年間の活動についての項目

### 学習・自己啓発・訓練について

近年の雇用情勢の変化や価値観の多様化などにより、自己の職能技術の向上や生きがいのための学習活動が盛んになっていると言われています。

この項目は、このような学習・自己啓発・訓練の目的や内容を把握するものであり、生涯学習の振興、社会教育や職業訓練などの文教・労働施策に活用されます。

#### 学業以外の学習等をした人の割合(10歳以上、男女別上位4項目)－平成18年



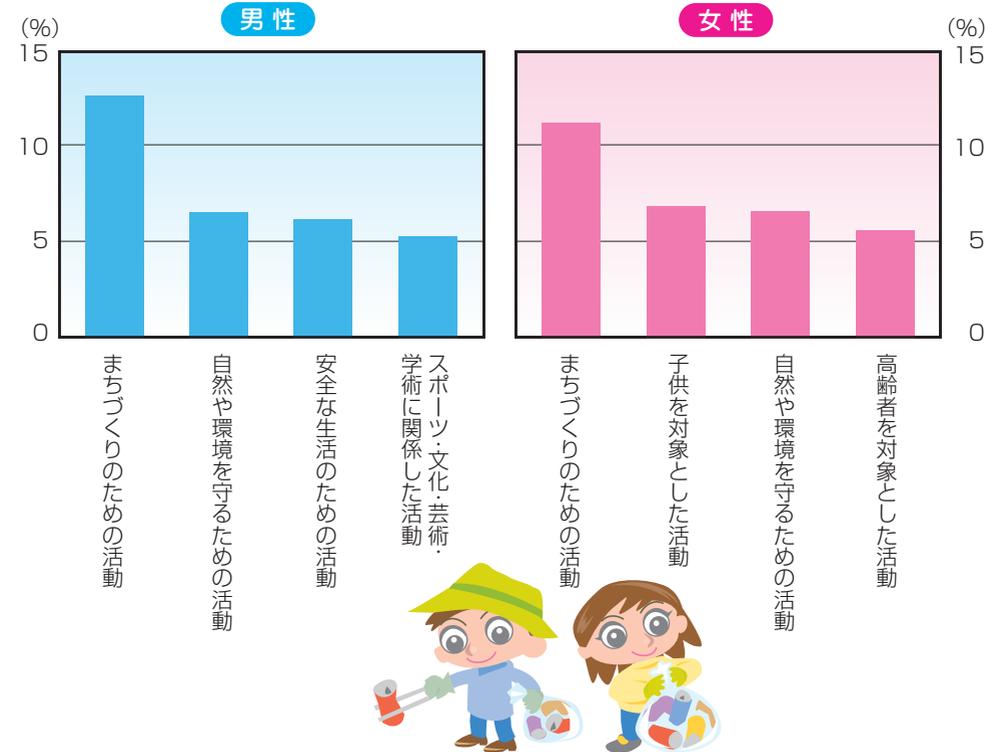
男性は「パソコンなどの情報処理」の割合が最も高く、次いで「商業実務・ビジネス関係」となっています。女性は「家政・家事」の割合が最も高く、次いで「芸術・文化」となっています。

### ボランティア活動について

ボランティア活動は、地域社会での助け合いや活性化等に寄与するものとして、わたしたちの生活における重要性がますます高まっています。

この項目は、ボランティア活動について、その内容や頻度、1日当たりの活動時間や参加の形態など、各種ボランティア活動に関する実態についての情報を提供し、関係する行政施策の基礎資料となります。

#### ボランティア活動をした人の割合(10歳以上、男女別上位4項目)－平成18年



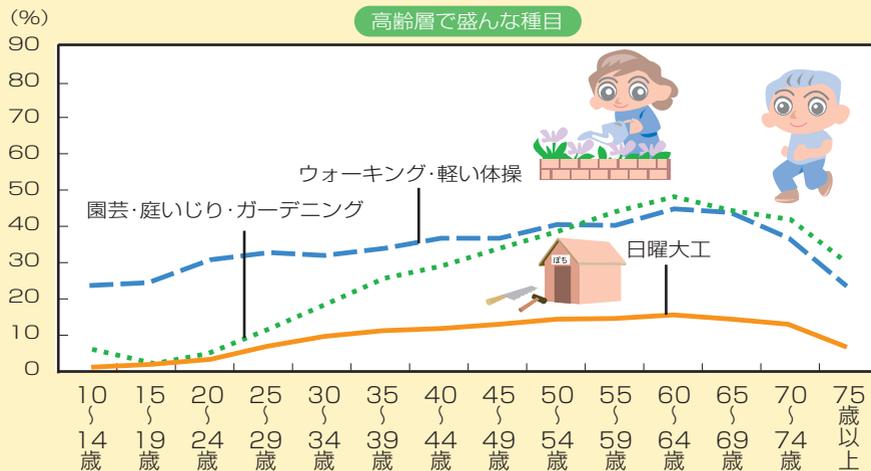
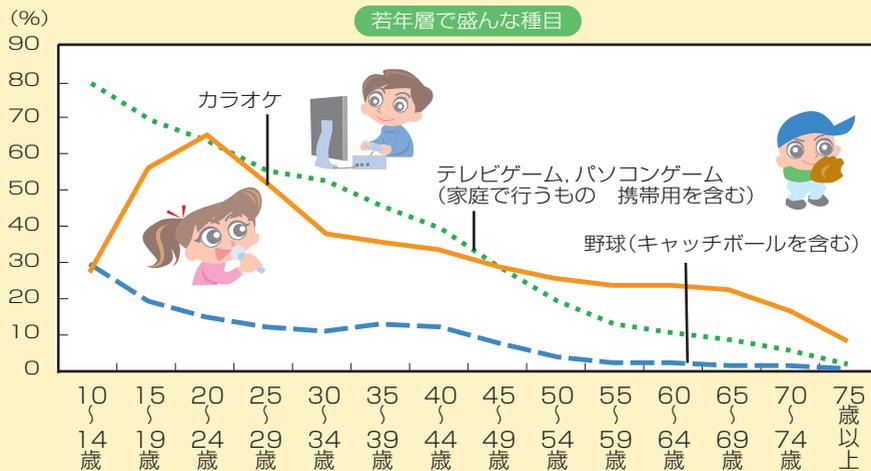
男女共に「まちづくりのための活動」の割合が最も高くなっています。次いで高いのは、男性は「自然や環境を守るための活動」で、女性は「子どもを対象とした活動」となっています。

スポーツについて

趣味・娯楽について

この項目は、スポーツ、趣味・娯楽について、その内容や頻度を把握するものであり、男女、年齢の別など個人の属性別に集計することにより、スポーツや文化活動の振興といった文教施策などに活用されます。

年齢別にみたスポーツ、趣味・娯楽をした人の割合(10歳以上) - 平成18年

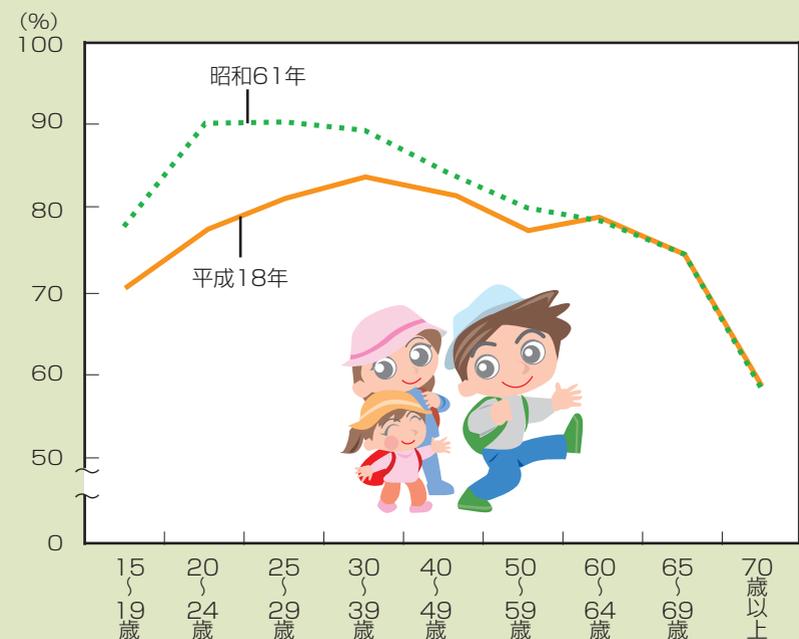


旅行・行楽について

旅行・行楽は、自由時間における特徴的な行動の一つです。

この項目は、旅行・行楽の内容や頻度、一緒に行った人などを把握するもので、関係する行政施策の基礎資料として活用されます。

年齢階級別「旅行・行楽」をした人の割合(昭和61年・平成18年)

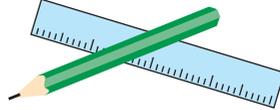


昭和61年と平成18年の結果を比較してみると、「旅行・行楽」をした人の割合は、20年間に高齢層ではそれほど大きな変化はありませんが、若年層で大幅に減少しています。

## 生活時間について

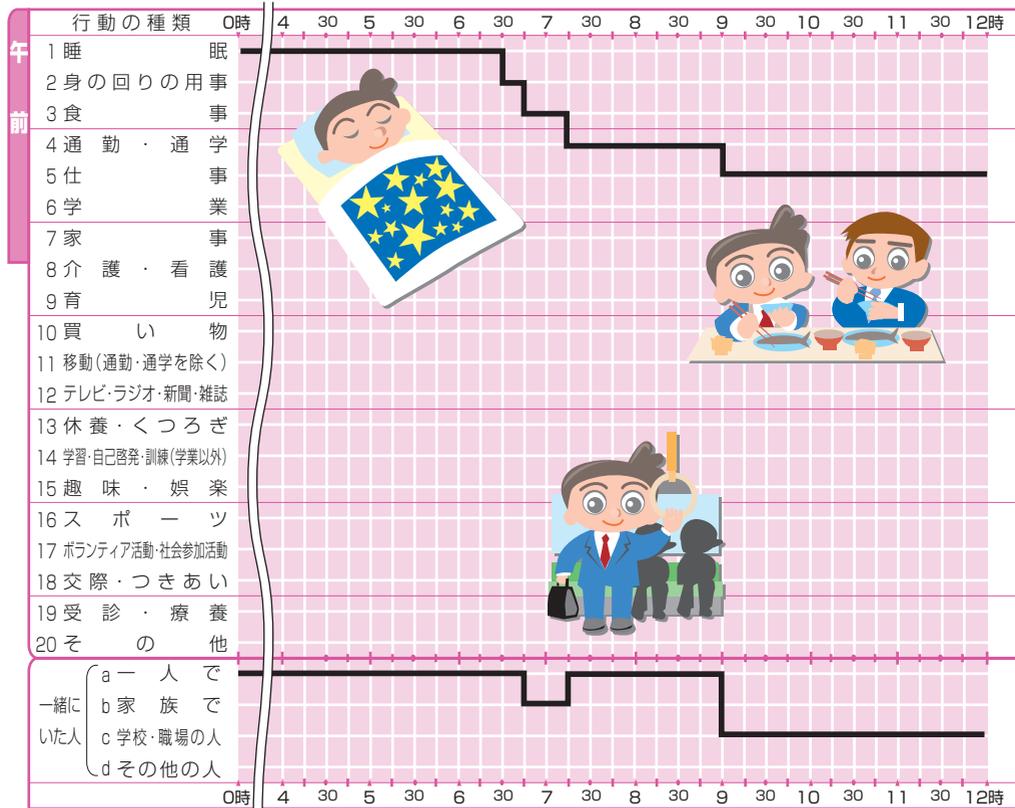
この項目は、わたしたちの生活時間の配分を把握するもので、社会生活基本調査の主要な調査項目の一つとなるものです。

連続する2日間にわたって、1日24時間をどのような時間配分で生活しているかについて、15分単位で記入します。



### 【記入例】

(1)この日は 次のいずれの日でしたか(当てはまるものすべてに記入してください)										(2)この日の天気はどうでしたか			
旅行・行楽	行事または冠婚葬祭【半日以上の参加】	出張・研修など	在宅勤務	療養	休みの日【休暇・休日など】	育児休業・子の看護休暇	介護休業・介護休暇	その他			1日中雨が降っていた	一時雨が降っていた	雨は降らなかった
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



### 調査票A

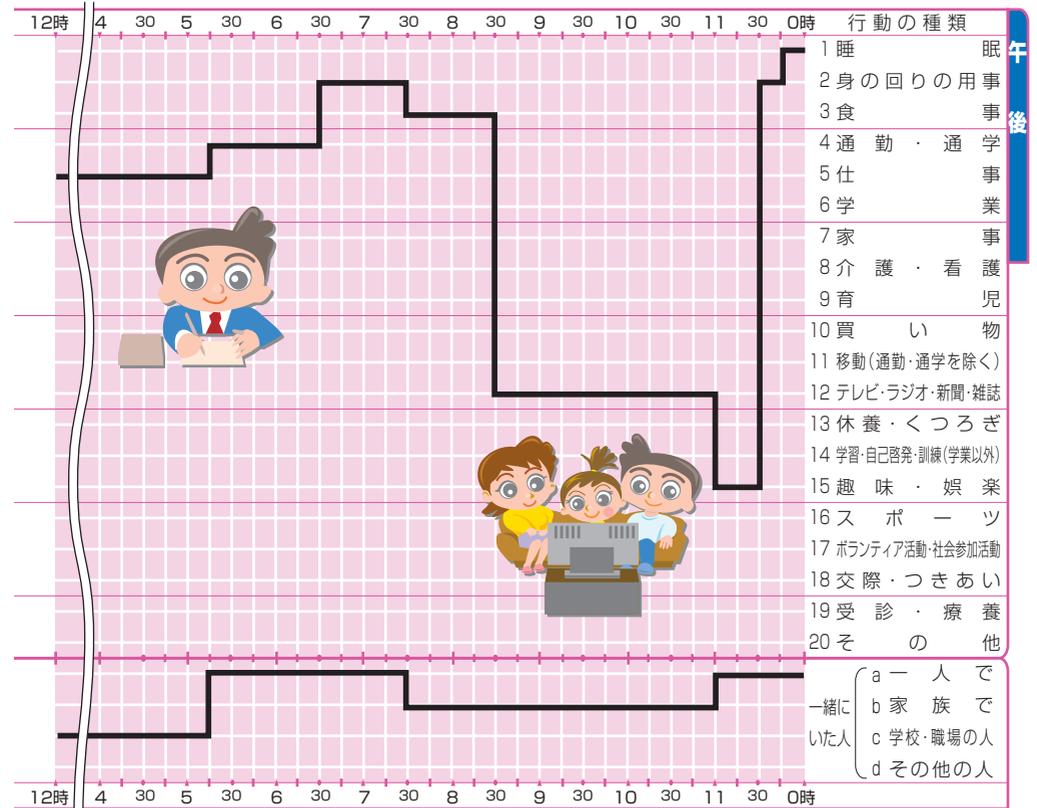
生活行動をあらかじめ20種類に区分した調査票に、回答者が、時間ごとにあてはまる「行動の種類」と「一緒にいた人」に線を引きます。

「一緒にいた人」は、家族とのふれあい、社会とのつながりなどを把握するための調査項目です。

### (Q&A)

**Q: 15分単位で書くのはなぜですか？**

**A:** 社会生活を営む上で、人は短時間でいくつもの行動をこなすため、あまり時間の間隔を長くすると、記録されない行動が多くなってしまいます。一方で、あまり細かくしすぎると記入が大変になってしまいます。それらを考慮し、15分単位で記入することとしております。



調査票B

この調査票では、記入者が、「おもに何をしていましたか」、「一緒にいた人」、「場所」などをできるだけ詳しく、具体的に記入します。

また、この調査票では、同時に行った行動を調査することにより、生活時間の配分や生活行動の実態をより詳細に把握することができます。

【記入例】



午前		場所		一緒にいた人	
時刻	おもに何をしていましたか	同時に何か他のことをしていましたか	場所	一緒にいた人	インターネットの利用
0:00	睡眠		自宅	自分	
0:30			自宅	自分	
1:00			自宅	自分	
1:30			自宅	自分	
2:00			自宅	自分	
2:30			自宅	自分	
3:00			自宅	自分	
3:30			自宅	自分	
4:00			自宅	自分	
4:30			自宅	自分	
5:00			自宅	自分	
5:30			自宅	自分	
6:00			自宅	自分	
6:30			自宅	自分	
7:00	洗顔 着替える 朝食のしたく 朝食を食べる	3歳の子供を着替えさせる 犬にエサをやる	自宅	自分 3歳の子供	
7:30	3歳の子供を保育園につれて行く		自宅	自分	
8:00	自宅へ帰る		自宅	自分	
8:30	仕事		自宅	自分	
9:00			自宅	自分	
9:30			自宅	自分	
10:00			自宅	自分	
10:30			自宅	自分	
11:00	お茶を飲む 仕事		自宅	自分	
11:30			自宅	自分	
12:00			自宅	自分	

このように詳細に把握した行動を細かく分類、集計することにより、家事やボランティアなどの収入を伴わない無給の労働（無償労働）の分析や多様化する生活の実態を明らかにすることが可能となります。また、多くの国ではこのような方式の調査票を採用しているため、国際比較に利用することができます。

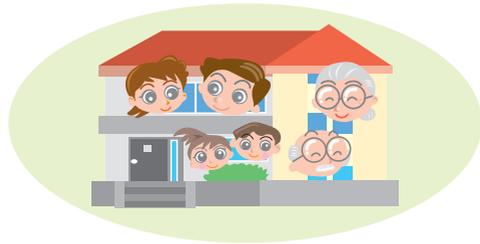


午後		場所		一緒にいた人	
時刻	おもに何をしていましたか	同時に何か他のことをしていましたか	場所	一緒にいた人	インターネットの利用
0:00	お茶を飲む 仕事		自宅	自分	
0:30			自宅	自分	
1:00			自宅	自分	
1:30			自宅	自分	
2:00			自宅	自分	
2:30			自宅	自分	
3:00			自宅	自分	
3:30			自宅	自分	
4:00			自宅	自分	
4:30			自宅	自分	
5:00	洗濯機をセットする 3歳の子供を保育園に迎えに行く	犬の散歩をする	自宅	自分 3歳の子供	
5:30	買い物に行く 買い物をする		自宅	自分	
6:00	自宅へ帰る 買った物をしまう 夕食のしたくをする	犬の散歩をする	自宅	自分 3歳の子供	
6:30			自宅	自分	
7:00	夕食を食べる	洗濯物を干す 風呂を掃除して湯を張る テレビをみる	自宅	自分	
7:30			自宅	自分	
8:00			自宅	自分	
8:30	3歳の子供と風呂に入る		自宅	自分 3歳の子供	
9:00	3歳の子供に絵本を読み聞かす うたね 編み物（趣味）	夫とおしゃべり	自宅	自分 3歳の子供 夫	
9:30			自宅	自分	
10:00			自宅	自分	
10:30			自宅	自分	
11:00	インターネットで衣料品を注文	CDで音楽を聞く	自宅	自分	
11:30			自宅	自分	
12:00	睡眠		自宅	自分	

## 世帯に関する項目

### 住居の種類

住居は、生活の本拠となる重要な場所です。この項目は、住居が持ち家か借家かなどによる生活行動の違いを明らかにするものです。



### 自家用車の有無

自家用車の有無は、身近な交通手段として生活行動に大きく影響するため、生活行動をとらえる上で欠かせない項目です。



### 世帯の年間収入（税込み）

わたしたちの行動は、時間と空間（場所）に加えて、費用（経済力）により大きく左右されるため、世帯の収入を把握することにより、費用面からみた生活時間の配分や自由時間における活動の違いが明らかになります。

また、個人の仕事からの収入と世帯の収入とを組み合わせることで集計することにより、仕事からの収入が低いため、独立したくても経済的な自立が困難な若者の生活の実態などが明らかになり、各種の行政施策の基礎資料となります。



### ふだん世帯員以外の人から介護の手助けを受けていますか

この項目は、介護を必要とする人がいる世帯において、別居の親族からの手助けや介護サービスなどを受けているかについて把握するものです。

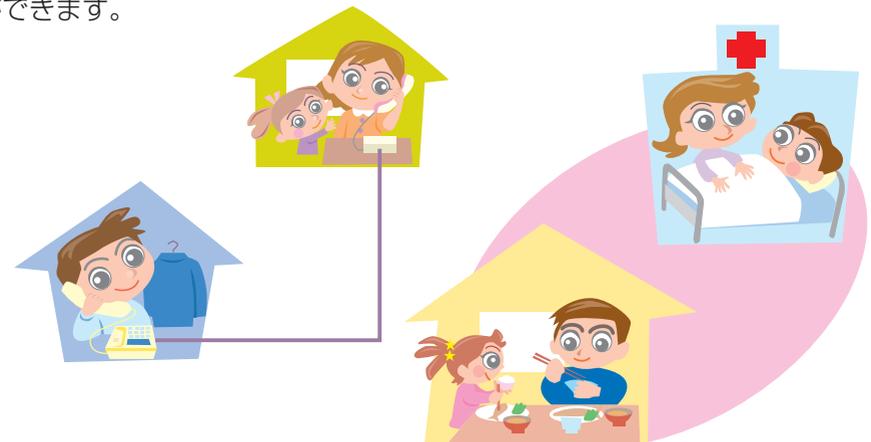
これにより、世帯員の生活行動や生活時間にどのような影響があるのかを明らかにすることができ、今後の介護に関する支援などの施策のための基礎資料となります。



### 不在者の有無

この項目は、世帯に不在者がいるかどうかを把握することにより、その留守家族の生活行動を明らかにするものです。

例えば、入院している家族がいる場合や、配偶者が単身赴任などで長期間不在の場合、留守家族の生活行動にどのような影響があるかについて明らかにすることができます。



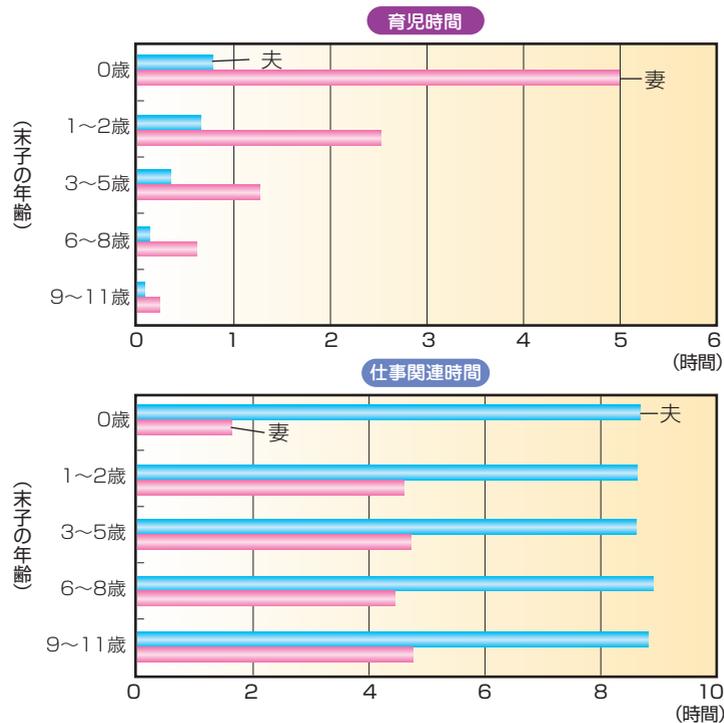
## 10歳未満の世帯員について

### 世帯主との続き柄

### 年齢

世帯に10歳未満の子供がいるかどうか、子供がいる場合には、その子供の年齢によって、夫や妻の生活行動には大きな違いが生じます。これらを把握することにより、育児など家事関連時間にかかる時間の違いが明らかになり、少子化対策の基礎資料となります。

### 末子の年齢別にみた夫・妻の1日の仕事、育児時間(共働き世帯, 週全体)ー平成18年



育児時間は、末子が小さいほど夫、妻ともに長くなっており、その差も大きくなっています。また、夫の仕事関連時間は末子の年齢による変化はありませんが、妻の仕事関連時間は末子が0歳の時に他と比べて大幅に短いなど、大きく影響されています。

### 在学・在園の状況

この項目は、延長保育や学童保育などの利用状況を調べるものです。こうした保育の状況と、家族の生活行動や生活時間との関係を明らかにするなど、雇用や子育て支援などにおける課題に対応するために必要な項目です。

### ふだん世帯員以外の人から育児の手助けを受けていますか

この項目は、別居の親族や隣人などから育児の手助けや育児支援サービスを受けているかについて調べることにより、地域における育児に関する助け合いの状況などについて明らかにするものです。これも、雇用や子育て支援などにおける課題に対応する上で役立つ項目です。

